

武蔵村山市立小・中学校

学校図書館だより

— 本で育つ 本でつなぐ —

発行 武蔵村山市教育委員会

編集 武蔵村山市学校図書館活用推進プロジェクト学校図書館だより編集委員会



9年間を通して

言葉の力を育む

武蔵村山市教育委員会

教育長 持田 浩志



子供たちに「確かな学力」を身に付けさせるためには、その基盤となる

「言語の力」を高めることが大切です。平成25年度、武蔵村山市では、全ての小・中学校が東京都教育委員会「言語能力向上推進校」の指定を受け、小中連携の視点から、中学校区を単位に「言語能力の向上」を指した研究を進めています。

近代社会における利便性の追求から、氾濫する情報に起因する事件や事故が多く生じています。そのような社会環境の中で育ち、国際社会で生きていく子供たちだからこそ、確かな「言語の力」を身に付け、社会を生き抜いていけるようにしなければなりません。義務教育終了時の子供の姿を、学校と家庭が共有できるように、日常的な連携を重視して参りたいと考えています。

言語能力を育むための 各学校の取組の充実

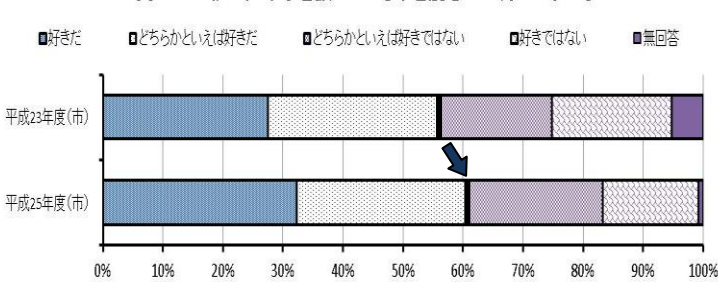
本市では、例年4月に、小学校3年生と中学校1年生を対象として、市の学力調査と併せて「生活・学習意欲調査」を実施しています。

この調査結果の一部に、これまでの各学校や御家庭での読書活動に関する取組の成果が、表れてきていると考えられます。

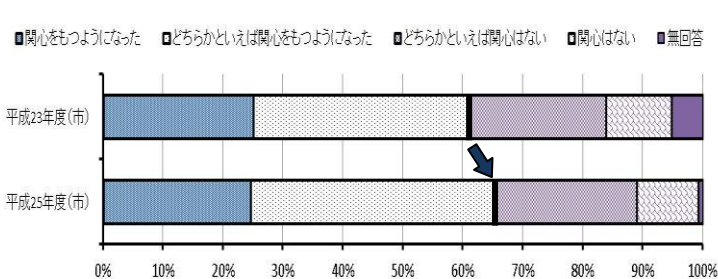
中学校1年生では、「新聞やニュースに関心をもつようになった」「歴史上の人物や出来事を扱っている本を読むのが好きである。」と回答した生徒の割合が、平成23年度と比べて、増加しています。

本年度からは、本市の全小・中

歴史上の人物や出来事を扱っている本を読むのは好きですか。



社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになりましたか。



平成25年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(市調査)「生活・学習意欲調査」の結果(中学校第1学年)から

小中学生の 読書感想から

「エディのやさいばたけ」を読んで
第七小学校 2年 徳田 紬乃

このお話は、エディという男の子と
リリーという女の子が、はたけをつく
るお話です。

ひみつきちをつくったり、エディが
おかあさんとおりのうりをしたり、た
のしそうだなあと思いました。おじい
ちゃんもあそびにきたりします。

わたしも今、プランターで、しそと
なすをそだてています。エディのやさ
いばたけはりっぱです。わたしも、は
たけがほしいです。エディは、えんど
うやいんげんなど、いろいろとそだて
ていました。わたしがそだててみたい
のは、いちごとかぼちゃです。いちご
はそのままたべて、かぼちゃはパイに
してみたいです。

わたしは絵本がすきなので、本を読
むと、そのまま本の中にすいこまれて、
本の中をたんけんします。そして、心
があたりたかくなります。

私のおすすめの本

第二小学校 4年 内野 七虹

私がすすめるのは、「チロヌツプ
のきつね」です。この本は、親子きつ
ねが主人公の、心あたたまる物語です。
戦争など知らずにくらしていたきつ
ねの親子が、戦争のために島にやって
来た人間のせいで、自分たちの今まで
の幸せなくらしをうばわれてしまいま
す。人間のしかけたわなにかかって動
けなくなった「ちびこ」を、お母さん
がしつぽであたためてあげる場面が心
に残りました。お母さんは自分のごは
んも食べずに、ちびこにごはんをあげ
ていたので、とてもやさしいなと思
いました。

私にも同じような経験があります。
この本と同じように、ごはんをおかわ
りする時に、お母さんが自分の分を分
けてくれました。私もちびこのように、
お母さんに大切にされているのだと感
じました。この本を読んで、私も自分
の家族を今まで以上に大切にしてい
たいと思いました。
みなさんも、ぜひ読んでみてください
い。

ねこたち町

第八小学校 4年 遠藤羽純美

私が、この本の病院コンサートとい
う目次を見て、おもしろく、どんなお
話なんだろうと、ふしぎに思いました。
読んでいくと、ミコという女の子の気
持ちが変わっていくところにきょう味
をもちました。

この本は人が、(ねこたち町)の世界
です。お話をす。ミコは(ねこたち
町)に着くと、ねこになってしまった
のです。そして、かいねこのスズにつ
れられて、病院コンサートに行きまし
た。ピアノを演奏していたのはミコの
お母さんで、そのコンサートを見てい
るうちに、ミコはだんだんねこの気持
ちが分かってきました。多くの経験を
し、教えられたこと、「ひとと動物です。
おなじ星にすむ仲間です。人がよごし
た地球は、人の力でしかきれいにでき
ません。」ということ。この文は、
その通りだなと思います。なぜなら、
地球はみんなの住む所であり、私たち
自身が守っていかなければいけないと
思ったからです。私は、この(ねこた
ち町)に行ってみたいと思いました。

島を守った中学2年生

村山学園 6年 竹川 貴巳

「ぼくらの秘島探検隊」は、「ぼく
らシリーズ」の一つです。内容は、沖
縄のある島をゴルフ場にしようとする
人たちと主人公の中学生たちが戦い、
その島や島の人たちを守ろうとする話
です。

ぼくが、一番心に残っている言葉は、
「島が泣いている」という第一章や第
二章の題名です。ぼくも、島を壊して
まで、ゴルフ場を作る大人たちを見
たら、きつと島は悲しむと思います。
さらに、島の人たちが島を出て行く
後ろ姿を思うと、ぼくも涙が出てき
うになります。でも、中学2年生の人
たちの大人に立ち向かう正義感にも心
を打たれました。この人たちは本当に
自然を大切にしていると思いました。
ぼくも、このグループの一員なら、
必ず参加します。中学2年生たちは、
大人たちを追い出して、島が元通り
になったので、きつと「島は笑っている」
と思ったはず。です。
「ぼくらシリーズ」は、全部で11巻
あるので、全部読んでみたいです。

読書の感動を文章に

本を読んだことから得られる感動は、読む人によってそれぞれ違います。それは、読んだその人のこれまでの経験やものの考え方などが、大きく影響するからでしょうか。

NO. 6とNO. 7の2号にわたって、本市の小・中学生の読書感想を紹介します。

本は私のテレビ

第四中学校 1年 大石 桃佳

おおいし ももか

私は、読書がとても好きです。学校で2冊、図書館で5冊ほど借りても、一週間で読み終えてしまうほどです。その中で、私が紹介したい本が2冊あります。

1冊目は、はやみねかおるさんの「都会のトム&ソーヤ」シリーズです。この本は、中学2年生の塾通いに追われるふつうの男の子、内藤内人と、内人の成績優秀なクラスメートの童王創也が、都会を舞台に大冒険をするという

話です。なぜ、大冒険をするのか。それは、創也には究極のゲームを作るといふ夢があるからです。そのために、

伝説のゲームを作っているゲームクリエイターの栗井栄太や、謎の組織頭脳集団に命を狙われたりするほどです。その他にも、うさぎ取りのわなの作り方、雑学なども書いてあり、とても面白いです。

2冊目は「学校クエスト」ぼくたちの罪」です。この本は、いじめとゲームが大きく関係しています。ネットに悪口を書き込んでしまったある4人の男女。いじめられた子は、飛び降り自殺をしていますが。その子の父親は、ゲームを通して、いじめは悪いことだと伝えようとしています。

少し悲しいお話ですが、最後はとても感動します。4人で、「いじめてごめんなさい。」という思いを伝えたと、最後の行に、「その時、まぶたが、びくりと動いたきがした。」と書いてあり、とても心が動かされました。

本は、読んでいろいろ想像をすることができて、頭の中に画像が流れているように感じます。

みんなにも、たくさん本を読んでこの感覚を分かってもらいたいです。

「晩夏のプレイボール」

第一中学校 2年 福島 涼太

ふくしま りょうた

この題名を見て、きつと高校野球の夏の終わり頃なんだろうなと思いました。私も野球をやっています。だから、この本を見て高校で野球をやるのに良い手本になるのではないかと思います。甲子園を目指している少年はどこにだっています。けれども、私は何か足りない。その何かをこの本で見つけ、うまく利用したいのです。

私はこの本を読み、共感できるところがあります。それは、野球を初めてやった幼い頃に、一生懸命にやったボールを投げる、捕る、走る、ということ。ボールに慣れていなくても、一生懸命にやれば慣れていくということ。初めて打球を捕った時と同じです。初めて言葉をしゃべったようなものです。これは違うと思っただけ、基本ができていないからと言って、選手に暴力をふるったことです。それにより、選手が数人やめることになってしまったのです。この時、作者が言いたかったことは、ちよつとのことだからと言って選手、生徒たちに手を出してはいけないと言うことだと思います。

主人公率いるチームは地区の決勝まで勝ち上がりました。試合は5回まで終わり5対1で負けていました。けれども選手達は諦めずに戦い、最終回に5対4で、二死満塁まで相手を追い詰めました。バッターはこの日一番打っていない8番に回り、2ストライクと追い込まれました。ピッチャーが投げ、バッターはフルスイングをし、諦めず打った打球は右中間を破る三塁打で決勝を決めました。甲子園出場を果たしたのです。

この本の登場人物の生き方は何でも諦めずに正々堂々戦い抜くこと。私は何かに対して諦めてしまう。それが僕との違いです。このことは、私にとつて行動です。これからは何ことも諦めずにやってみようと思います。また、私は最後のバッターの精神も凄いと思います。私も少年野球の頃、負けていた私の番になり、結局打てずに負けてしまった経験があります。だからこの精神を見習いたいです。

私はこの本からいくつものことを学びました。これからはこの本で習ったことを活かしていきたいです。習ったことを忘れてしまったら、この本を思い出したいです。

心に残った本との出会い

読書カード

第一小学校では、親子読書習慣に読んだ本の中から、心に残った本の感想を読書カードに記録しました。子供たちの感想の一部を、紹介します。

「星座を見つけよう」を読んで

第一小学校 3年 ながい長井 ちひろ千紘

もともと私は星座についてよく知らなかったの
で、この本が図かんのように思いました。星座につ
いて分りやすくていいので、
星座を2、3こおぼえました。

いつどの星が見えるかも書いて
あったので、私も外で星を見
てみたいです。



「のれたよ、のれたよ、自転車ののれたよ」を読んで

第一小学校 2年 なかしまあかり中嶋亜香里

目が見えなくてもどりよくするみゆきちゃんに、
かんとどうしました。わたしもみゆきちゃんみたいに
どりよくして、いろんなことをがんばりたいと思
いました。

そしていろいろなこと
にちょうせんしたいと思
いました。



主体的な読書活動の充実を！

司書担当 河西 隼人
学校司書 木村 知佐

雷塚小学校では、言語活動の基盤と
なる語彙を豊かにし、言語能力を高め
ていくため、児童が日常的に親しむた
めの読書活動を推進しています。特に、
毎週金曜日の朝読書、年2回の読書月
間など、児童の主体的な読書活動の充
実を目指し、取り組んでいます。

今年度から、言語能力と読書量との
相関関係を明らかにするため、読書量
の記録を付けることにしました。読ん
だ本のページ数を毎回カードに記入さ
せることにより、正確な読書量の把握
及び児童の読書に対する意識が高めら
れ、ひいては読書量の増加につながる
と考えています。

6・11月の読書月間では、図書委員
の児童が、全校に向けて読書の啓発を
図り、様々な工夫を凝らした活動を展
開しています。中でも、児童が力を入
れているのが、好きな本、面白かった
本、読んでもらいたい本などをカード
に書いて紹介する「素敵な本に出会え
たよ」の取組です。掲示板いっぱい
貼られたコメントから、児童たちの思

いが伝わってきます。

・「どうぞのいす」は、うさぎがい
すを作ったところがすごいなと
思いました。(2年児童)

・「きつねのでんわボックス」は、
子どもをなくしたきつねが、一
人の男の子のために、こわれたで
んわボックスに変わったところが
感動しました。(4年児童)

その他に、学校司書と連携した「本
のもりだより」(図書委員編集)の発行
や、読書活動啓発ポスター作成など、
意欲的な活動の様子が多く見られるよ
うになりました。また、保護者のボラ
ンティアによる朝の読み聞かせも実施
しています。

その結果、進んで本に親しみ、読書
を楽しむ児童が増えてきたと実感して
います。今後も、読書が日常化してい
くよう努めて参ります。

【編集委員】

教育センター研修室長	小川 隆志
第二小学校 学校司書	長谷川雅美
第七小学校 学校司書	稲葉 智子
第十小学校 学校司書	木村 清子
第三中学校 学校司書	小久保弘実
第五中学校 学校司書	山口 淳子